

第14回 熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会

日時：令和4年（2022年）3月2日（水）午前10時～
場所：《対面形式》熊本県庁 本館13階 展望会議室
《オンライン形式》Zoom 接続

次 第

1 開 会

2 挨拶（熊本県健康づくり推進課）

3 議 題

（1）ハンセン病問題普及啓発に係る令和3年度（2021年度）の 県の取組について

①健康づくり推進課 資料1

※りんどう相談支援センター

②人権同和教育課 資料2

③人権同和政策課 資料3

（2）その他

4 閉 会

熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会 委員一覧

	氏名	所属	区分
委員長	内田 博文	九州大学名誉教授	学識経験者
委員長代理	小野 友道	熊本機能病院顧問（皮膚科） 熊本大学名誉教授	学識経験者
委員	遠藤 隆久	熊本学園大学名誉教授 ハンセン病市民学会共同代表	学識経験者
"	志村 康	菊池恵楓園入所者自治会会長	ハンセン病 療養所入所者等
"	中 修一	国立療養所菊池恵楓園退所者 ひまわりの会会長	ハンセン病 療養所入所者等
"	紫藤 千子	一般社団法人熊本県社会福祉士会 社会福祉士	ハンセン病問題 相談員
"	箕田 誠司	国立療養所菊池恵楓園園長	関係行政機関
"	岩永 慶太	熊本地方法務局人権擁護課長	関係行政機関
"	井上 大介	教育庁人権同和教育課長	関係行政機関
"	岡 順子	健康福祉部健康局健康づくり推進課長	関係行政機関

(敬称略)

熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会設置要項

(名 称)

第1条 この委員会は、熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目 的)

第2条 委員会は、熊本県「無らい県運動」検証委員会報告書の提言を受けて、本県が関係各界と連携して取り組むべき、ハンセン病問題の啓発等に関する基本的方向やあり方等を検討することを目的とする。

(協議事項)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 本県の取組状況に関する事
- (2) 県民への啓発意識の向上のための取組の検討に関する事
- (3) 各界（医療界、法曹界、マスコミ、宗教界等）の取組状況に関する事

(組 織)

第4条 委員会は、次の各号に該当する者のうちから、知事が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) ハンセン病療養所入所者等
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) その他

(委員)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選によってこれを選任する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指定した委員が、その職務を代理する。

(委員会)

第7条 委員会は、委員長が招集し、委員会の議長となる。

2 委員長は、必要に応じて、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

3 委員がやむを得ない理由で出席できないときは、あらかじめ委員長の承認を得て、当該委員が指名する者が、当該委員に代わって委員会に出席し、議事に加わることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課において処理する。

(その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

(附則)

- 1 この要項は、平成27年3月23日から施行する。
- 2 この要項の施行後、最初に任命される委員の任期は、第5条第1項の規定に関わらず、平成29年3月31日までとする。

熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会報告書の概要

■ 熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会設置の趣旨及び報告書作成の経緯

- 熊本県では、平成23年(2011年)年1月に熊本県「無らい県運動」検証委員会を設置し、計8回の検討を経て、平成26年(2014年)10月に「熊本県『無らい県運動』検証報告書」(以下「検証報告書」という。)を取りまとめました。
- 検証報告書では、熊本県に対して、「検証報告書において示された検証から導き出される教訓が熊本県および県民によっていかに生かされ、実現されているかを検討し、その検討結果の実現に向けた道筋等を明らかにする」(検証報告書P354)目的で、委員会の設置が提言されました。これを受け、熊本県は平成27年(2015年)3月23日に「熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会」(以下「委員会」という。)を設置しました。
- 第1回の委員会において、概ね5年を目途に委員会での検討内容を取りまとめて公表することとされたため、本報告書は、これまでの検討状況を整理したものです。

■ 委員会の目的及び開催状況

(設置目的)

委員会は、熊本県「無らい県運動」検証委員会報告書の提言を受けて、熊本県が関係各界と連携して取り組むべき、ハンセン病問題の啓発等に関する基本的方向やあり方等を検討することを目的とする。

(協議事項)

- ① 熊本県の取組状況に関すること。
- ② 県民への啓発意識の向上のための取組の検討に関すること。
- ③ 各界(医学界、福祉界、法曹界、マスコミ、宗教界)の取組状況に関すること。

(開催状況)

回	日時	協議テーマ
第1回	H27.3.23	委員長選出、委員会スケジュールなど
第2回	H27.9.25	医学界からの報告、県の取組状況報告
第3回	H28.3.8	福祉界からの報告、県の取組状況報告
第4回	H28.9.20	法曹界からの報告、県の取組状況報告
第5回	H29.3.8	マスコミからの報告、県の取組状況報告
第6回	H29.10.2	宗教界からの報告、県の取組状況報告
第7回	H30.3.20	中間報告について、県の取組状況報告
第8回	H30.6.18	中間報告書について、県の取組状況報告
第9回	H31.3.18	県の取組状況報告
第10回	R元.7.4	委員会報告とりまとめ検討、県の取組状況報告
第11回	R元.10.25	委員会報告とりまとめ検討
第12回	R2.1.29	委員会報告書について、県の取組状況報告

1 ハンセン病回復者及びその家族を取り巻く現状と課題等

(1) ハンセン病問題への関心

2018年県民アンケート調査によると、平成8年(1996年)に「らい予防法の廃止に関する法律」が施行されて20年以上が経過した今でも、60歳以上の世代にはハンセン病に対する偏見や差別意識が根強く残っている傾向が伺えます。一方で、39歳以下の世代には、ハンセン病がどういう病気かを知らず無関心な傾向が伺えます。

(2) ハンセン病回復者の高齢化

国立療養所菊池恵楓園の入所者(以下「入所者」という。)は、平均年齢が84歳を超え、語り部活動に支障が生じるなど、県民との交流が困難になりつつあります。

(3) 社会生活に対する不安

ハンセン病療養所を退所し地域社会で生活されている退所者も、高齢となり介護施設を利用せざるを得ない場合があります。しかし、介護施設で不当な偏見や差別を受けるかもしれないという不安が、介護施設の利用を躊躇させ、社会生活を全うすることを困難にしています。

ハンセン病回復者やその家族は、偏見や差別が根深いため、社会生活において御自身や身内がハンセン病だったことを打ち明けられないのが現状です。

2 熊本県のこれまでの取組に対する課題・提言

(1) 課題

ハンセン病問題の悲劇を二度と起こさないよう、県民の関心をもっと高め、理解を深めてもらう必要がありますが、熊本県の取組への参加者が少なかったり、広がりがなければその効果は限定的です。県民参加の裾野を広げるためには、関心を持たない集団や理解を深めたい集団など、その特性に応じた対策を講じなければなりません。

また、ハンセン病回復者やその家族の社会生活に対する不安を少しでも解消できるよう相談・支援の窓口の設置が必要です。そのためにはハンセン病問題を理解した人材が必要です。

(2) 今後に向けた提言

何よりも多くの県民にハンセン病問題の存在を正しく知ってもらうことが大切です。偏見や差別を根絶するための啓発の取組を、PDCAサイクルにより評価・改善しながら継続しなければなりません。改善にあたっては、医療や福祉、教育だけでなく、マスコミ、宗教、法曹など広く各界と連携するとともに、歴史や美術、文学など様々な分野を絡めるなどの創意工夫が必要です。

さらに、県民に関心を更に高めてもらうことも大切です。次世代を担う若者層や、医療・福祉分野などのハンセン病回復者と接点を持つ職種に焦点を当てた取組を充実していく必要があります。また、自分が当事者だったらどう感じるか、何ができるかを考える一人称視点を企画に取り入れるなど、ハンセン病問題の知識が意識となり行動につながるような啓発プログラムの開発に取り組む必要があります。

そして、ハンセン病問題に精通した社会生活支援の専門家等を配置した支援体制

を整備し、ハンセン病回復者やその家族が住みやすい社会を目指すことが重要であり、ハンセン病問題の教訓を様々な人権問題へのアプローチに波及させ、全ての人の人権が尊重される社会の実現につなげていかなければなりません。

3 これからの県民の意識向上のための取組の方向性

(1) 全ての人の人権が尊重される社会の実現に向けて

入所者の方々が人権を守るために闘ってきた歴史を学ぶことは、戦後の隔離政策の要因だった各界のパターナリズム(※)の問題や様々な人権問題に対する意識を高めることにつながります。

ハンセン病問題では、多くの「差別意識のない偏見や差別」が生み出されました。自分は偏見や差別をしていないと思っていても、実際には人権を侵害している場合があります。それに気づくよう、ハンセン病回復者やその家族の方々の辛い思いを具体的に示していくことが事態の改善や教育・啓発に必要です。

※ パターナリズム(父権主義)とは、強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益のためとして、本人の意思にかかわらず介入・干渉・支援することをいいます。

(2) 実践行動ができる人権教育の推進

ハンセン病問題の教育・啓発には、これからの時代を担う若い世代の人権教育が大切です。小学校から大学までの各段階の教育に応じて一貫した人権施策が求められません。文部科学省では、知識偏重で行動改善につながらなければ偏見や差別をなくすことは難しいことから、自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動ができる人権教育を推進しています。

また、人権教育を行う教育者自身に対する人権研修が重要であり、教育者には、その研修効果を自分の教育活動に具体的に生かすことが求められます。

(3) ボランティアガイドの確保や社会生活支援など

ハンセン病問題の啓発には、入所者の実体験に基づく話や、実際に暮らした現地を訪れるなど、直接見て聞いて肌で感じるものが非常に効果的です。

今後、ハンセン病回復者の方々の高齢化といった状況の変化により、語り部の記録や伝承者の育成、ボランティアガイドの体制整備を図る必要があります。

また、退所者が地域社会の中で生活していくための社会生活支援や、入所者がいなくなった後の菊池恵楓園のあり方、さらに貴重な資料の保存と活用といった取組を具体的に考えていく必要があります。

4 各界に求める今後の啓発の進め方等の提案

(1) 医学界に対する提案

医療従事者は、ハンセン病学のみならず、医療倫理、人権侵害などの歴史をハンセン病から学ぶことが求められます。

例えば、熊本大学の骨格標本の問題は、医療倫理の課題として伝えていかなければなりません。また、感染症にかかった患者は、医学的には被害者なのに、社会的には社会防衛を理由に加害者にすり替わる逆転現象が起こりやすいことから、将来、感染

力の強い病気が発生した場合には、ハンセン病問題を教訓に、感染拡大防止と併せて患者の人権も考えなければいけないことを啓発していかなければなりません。

(2) 福祉界に対する提案

覚悟を持ってハンセン病療養所を退所し、地域社会で生活しているハンセン病回復者の方々が、地域社会で人生を歩むためには、専門職の協力が欠かせません。ハンセン病問題に精通し、伴走型の生活支援を行う役割を持つ専門職が求められます。

また、介護施設を利用するにあたって「入所拒否をされないか」「偏見や差別を受けないか」という不安を解消するため、施設の運営者、職員だけでなく入居者に対する啓発も必要です。

(3) 法曹界に対する提案

戦後、ハンセン病患者が人権擁護の枠外に置かれた根拠は、「保護」すなわち「あなたの方のためですよ」というパターンリズムでした。

一方で、日本の憲法学界では、自己決定・自己責任で幸福を追求できない国民は、国等からの保護を通じて幸福を実現していく必要があり、その意味でパターンリズムは国民（当事者）の「権利」であると解され始めています。

ハンセン病問題を教訓に、パターンリズムが人権侵害を正当化する根拠となった歴史的事実を踏まえ、理論・実践の両面において人権尊重社会の実現に一層取り組むことが求められます。

(4) マスコミに対する提案

マスメディアが、ハンセン病問題を過去の問題と捉え関心を示さなくなってはなりません。ジャーナリズム精神をしっかりと守っていくことが求められます。

例えば、令和元年（2019年）6月のハンセン病家族訴訟判決の報道において、県民の関心が、訴訟の意義よりも賠償金額に向くような見出しが見受けられました。マスコミの思いとは裏腹に差別が助長される恐れもあります。ハンセン病回復者及びその家族が受けた偏見や差別を明確にし、憲法が保障する基本的人権を回復するために闘われている意義をもっと県民に啓発していくことが求められます。

(5) 宗教界に対する提案

宗教者は、隔離を受容することが信仰であるかのように教え、ハンセン病は「罪人の罪」であり「聖なる病」と説いてきたことを反省し謝罪されていますが、その教えがいつまでも蔓延しないよう、前世や過去の悪行とハンセン病を因果関係があるかのように結びつけることはおかしいということを啓発していくことが求められます。

5 ハンセン病問題啓発推進委員会のあり方について

今なお根強く残る偏見や差別に対して、教育・啓発の具体的な成果を出していくためには、この報告書で提言された項目に優先順位を付けて今後の県や各界の取組計画に盛り込むとともに、PDCAサイクルにより検証する仕組み・組織が必要です。

今後は、特に令和4年（2022年）4月にリニューアルオープンする予定の社会交流会館を核とした効果的な啓発のあり方などの議論も進めていく必要があります。

(以上)

[参考]

「熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会報告書」を踏まえた熊本県の取組みについて

課 題 ()…頁数	方向性 ()…頁数	取組(R3年度実績)	第13回委員会での 意見を受けての取組	担当課
ハンセン病問題への関心 (6)	<p>○全ての人の人権が尊重される 社会の実現に向けて (13)</p> <p>○実践行動ができる人権教育の 推進 (15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病問題啓発パネル展 ・菊池恵楓園絵画展・絵画パネル展 ・ふれあい福祉協会補助事業活用事業 (R2年度:カレンダー制作 R3年度:園内散策マップ制作) ・菊池恵楓園訪問事業「菊池恵楓園で学ぶ旅」※ ※R2年度及びR3年度は入園自粛要請により中止 ・ハンセン病啓発県職員出前講座(小学生) ・ハンセン病問題普及啓発リーフレット作成 ・一般研修会 朗読劇「あん」～誰にも生まれてきた意味がある～ ・九州ルーテル学院大学「菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展」共催 ・ハンセン病関連物展示会(熊本市内の民間美術館での開催を検討中) ・人権啓発Web講座(テーマ:ハンセン病回復者として伝えたいこと、 新型コロナウイルス感染症と人権～ハンセン病問題と自身の経験から～) ・人権教育に関する研修会(教育行政職員研修等) ・教職員のための菊池恵楓園現地研修※ ※現地研修代替措置として、研修用動画(30分)を作成 ・各学校の校内研修の推進 	<p>若い世代への啓発</p> <p>若い世代への啓発</p>	<p>健康づくり推進課</p> <p>人権同和政策課</p> <p>人権同和教育課</p>
ハンセン病回復者の高齢化 (8)	<p>○語り部機能とボランティアガイド の体制維持 (17)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病回復者語りDVD制作 		健康づくり推進課
社会生活に対する不安 (9)	<p>○入所者の問題から社会生活支 援の問題へ (17)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県ハンセン病問題相談・支援センター「りんどう」による相談支援 ・上記センターによる「家族補償制度」申請手続の支援 ・医療・福祉研修会 ・県談「ハンセン病と新型コロナについて思うこと」 	<p>コロナ禍における啓発</p>	健康づくり推進課

[参考]

「熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会報告書」を踏まえた熊本県の取組みについて

課 題 ()…頁数	方向性 ()…頁数	取組(R4年度予定)	担当課
ハンセン病問題への関心 (6)	○全ての人の人権が尊重される 社会の実現に向けて (13)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病問題啓発パネル展 ・菊池恵楓園絵画展・絵画パネル展 ・ふれあい福祉協会補助事業活用事業 ・菊池恵楓園訪問事業「菊池恵楓園で学ぶ旅」 ・ハンセン病啓発県職員出前講座 ・ハンセン病問題普及啓発リーフレット作成 ・一般研修会 朗読劇「あん」～誰にも生まれてきた意味がある～上映会 ・ハンセン病関連物展示会 	健康づくり推進課
	○実践行動ができる人権教育の 推進 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権啓発Web講座 (テーマ:ハンセン病回復者とその家族の人権、感染症をめぐる人権) ・人権教育に関する研修会(教育行政職員研修等) ・教職員のための菊池恵楓園現地研修 ・各学校の校内研修の推進 	人権同和政策課 人権同和教育課
	○語り部機能とボランティアガイド の体制維持 (17)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病回復者語りDVDを活用した啓発活動 ・熊本県ハンセン病問題相談・支援センター「りんどう」相談員の菊池恵楓園ボランティアガイド講習受講 	健康づくり推進課
社会生活に対する不安 (9)	○入所者の問題から社会生活支 援の問題へ (17)	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県ハンセン病問題相談・支援センター「りんどう」による相談支援 ・上記センターによる「家族補償制度」申請手続の支援 ・医療・福祉研修会 	健康づくり推進課

ハンセン病問題普及啓発に係る令和3年度（2021年度）実績報告
及び令和4年度（2022年度）事業計画

事業名：ハンセン病問題啓発パネル展

《概要》

県民がハンセン病問題について考え、正しい知識を得られるよう6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」の時期等にパネル展を開催。

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

・実施日と実施場所：

【熊本県庁地下通路】

菊池恵楓園生活用品、パネル展示 令和3年6月11日～6月22日

【熊本県庁ロビー】

菊池恵楓園パネル展 令和3年6月22日～7月 9日

※金陽会絵画パネル展と同時展示

■事業実施によって分かった問題点・反省点

- ・アンケートでは普及啓発の効果的な方法として、県広報誌による周知、テレビやラジオ番組、セミナーや研修会の実施、ホームページでの情報発信など様々な方法での普及啓発活動が求められていることが分かった。
- ・新たな展示場所の開拓が必要。

□令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

・実施日等

県庁ロビー、県庁地下通路、県民交流館パレアの3か所実施で調整中

事業名：菊池恵楓園絵画展・絵画パネル展

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・概要：県民がハンセン病問題について考え、正しい知識を得られるよう6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」の時期等に絵画パネル展を開催。

・実施日と実施場所：

【熊本県立図書館】

金陽会絵画パネル展 令和3年6月14日～6月24日

【熊本県庁ロビー】

金陽会絵画パネル展 令和3年6月22日～7月9日

※菊池恵楓園パネル展と同時展示。

※九州ルーテル学院大学とりんどう相談支援センター主催で九州ルーテル学院大学にて令和3年（2021年）11月1日～11月5日に「国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展「知らない」を観に行こう。vol.4」を開催。

※熊本市主催で、熊本市役所1階ロビーにて、令和4年1月24日～28日に絵画パネル展開催（県所有パネル貸出）。

□令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

・実施日等

県立図書館の実施で調整中

事業名：ふれあい福祉協会補助事業活用事業

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・概要：金陽会絵画を掲載した菊池恵楓園散策マップを制作し、県内小・中・高・大学等教育機関や福祉関係、医療関係機関等に配付。

・菊池恵楓園散策マップ概要

コンセプト：新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、園内の見学が制限され、特に学校現場では、ハンセン病に関する様々な問題をどのように子どもたちに伝えていくか検討されていると聞く。金曜会の作品をとおして、入所者の方々に想いを巡らせていただき、知識としてだけでなく、そこで感じたことを子どもたちと語り合っただけのようなマップを作成。

仕様：A5版 24ページ

作成部数：5,000部作成

収録作品：15点程度

配布先：教育機関（県内小・中・高校・大学、医療福祉系専門学校、看護学校等）

福祉関係機関（市町村社協、地域包括センター等）

医療関係機関（県・郡市医師会等）

□令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

- ・概要：令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動としては、啓発資料の作成を行ったが、令和4年度は、知識の補充にとどまらず、差別・偏見を正しく理解し、行動変容へ繋がるようなイベントをオンライン等も活用しての実施を予定。

- ・対象者：高校、大学、医療福祉系専門学校、看護学校等の学生等

事業名：菊池恵楓園訪問事業「菊池恵楓園で学ぶ旅」

〈概 要〉

県民が実際に菊池恵楓園を訪れてハンセン病の歴史等に直接触れ、また、入所者の方々の話を聴いて交流を深め、ハンセン病に対する正しい理解の普及啓発を図るため、小学5年生を中心とした親子コース（7月）と、一般コース（8月）を実施。

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため菊池恵楓園入園自粛要請により中止。

■事業実施によって分かった問題点・反省点

- ・入所者の方から直接話をお聴きする貴重な機会であるが、2年連続で中止となった。
- ・来年度は、社会交流会館が5月にリニューアルされ、恵楓園歴史資料館となるため、見学の内容等について、同施設や入所者自治会と相談しながら、準備を進めていきたい。

□令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

- ・概 要：小学5年生を中心とした親子コースと一般コースの実施を予定。
- ・実施日：7月に親子コース、8月に一般コースを予定（社会交流会館の予約体制が整い次第、日程を決定。）

事業名：ハンセン病啓発県職員出前講座

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・実施日：令和3年11月26日（金）
- ・対象者：南小国町立中原小学校5，6年生 9名
南小国町立市原小学校5年生 12名
南小国町立りんどう小学校5，6年生 14名 合計35名
- ・内容：各学校に職員が出向き実施。
 - ①小学生の頃、ハンセン病に罹った「山田太郎君のお話」の紙芝居。
 - ②金陽会の作品を紹介し、その背景について考えてもらう。
 - ③学校での身近な人権問題としてのいじめの問題に考えてもらう。



■感想（一部抜粋）

- ・資料からわからないことを知ることができた。
- ・家族に二度と会えないと知った太郎くんは、さびしさとそれを教えてくれなかった家族への怒りがあったかと思う。
- ・お父さんは、太郎くんをおいていかなければいけないという法を作った国への怒りと、もう二度と会えないだろう息子の顔を目に焼き付けておこうという思いで療養所を後にしたと思う。
- ・ハンセン病の患者の方が描いた絵はとても美しく、昔を懐かしんだり、恋しんだりする気持ちがひしひしと伝わってきた。

■事業実施によって分かった問題点・反省点

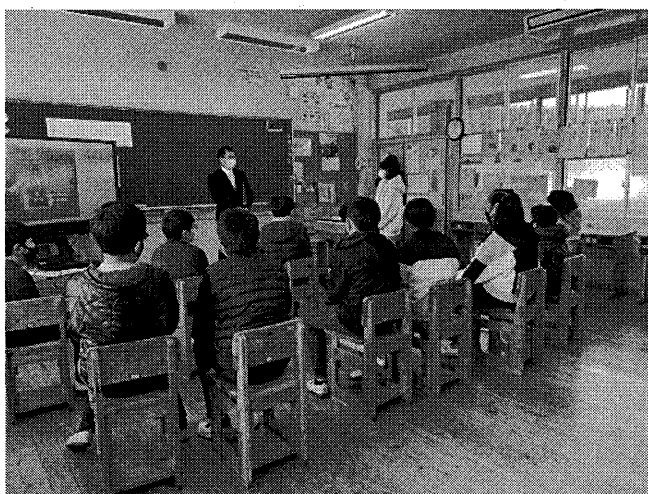
学校から「ハンセン病問題について、知識としては、すでに学習をしている。しかし、コロナ禍で現地学習ができないため、児童も実感として問題を捉えにくいのではないか。」また、「学校での身近な人権問題としてい

はじめの問題がある。ハンセン病問題をその学びとして活用できないか。」との要望があり、学校側と講座の進め方等を協議のうえ実施。

なお、1人1人が講座への参画意識を持ってもらうため、学校ごと、少人数で実施することとした。

今回は、児童数が少ないため、児童が考え、発言する時間を確保し、時間配分に留意することができたが、児童数が多い場合は、異なる実施方法を検討する必要がある。

〔出前講座の様子〕



□令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

・各機関、学校からの要望に応じて実施。

事業名：ハンセン病問題普及啓発リーフレットの作成

《概要》

ハンセン病問題を広く周知啓発するため、リーフレット「ハンセン病を正しく理解しましょう」を作成し、市町村・公立及び私立高等学校（1年生全員分）等に配布。

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・45,000部作成し、令和4年（2022年）3月下旬に学校、市町村等に配付

■事業実施によって分かった問題点・反省点

- ・毎年、県内の高等学校全校へ配布しているが、近年、各学校においてどのように活用されているか把握できていないため、リーフレットの活用状況について、教育委員会と連携しながら、把握する必要がある。

□令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

- ・令和3年度と同様に45,000部作成し、令和5年（2023年）3月下旬に学校、市町村等に配付

□過去の作成状況

平成29年度（2017年度）	45,000部作成
平成30年度（2018年度）	45,000部作成
平成31年度（2019年度）	47,000部作成
令和2年度（2020年度）	45,000部作成

事業名：熊本県ハンセン病回復者・家族支援事業

《概要》

「りんどう相談支援センター」を開設し、回復者及びご家族の相談対応と支援を行っている。また、要望に応じて研修や講演等を実施し、正しい知識の普及を行うとともに、回復者やご家族などの講演活動等普及啓発活動への支援も行っている。

- ・開設日：令和2年4月1日（水） 同日、除幕式を実施。
- ・設置場所：一般社団法人熊本県社会福祉士会事務所内
（熊本市東区健軍本町1-22）
- ・相談体制：社会福祉士3名程度で対応（平日 午前9時～午後4時）

【主な相談内容】

- ①家族補償制度について様式の取得方法や書類の記入の仕方、療養所への情報開示方法
- ②年金や福祉制度等

□令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・相談件数：232件、うち家族補償関係67件、実利用者数147人
（1月末時点）
- ・相談以外の活動
 - ①菊池恵楓園退所者の会ひまわりの会との意見交換会支援（R3.9.9）
 - ②「国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展「知らない」を觀に行こう。vol.4」開催。（R3.11.1～R3.11.5）
 - ③「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」式典オンライン参加（R3.11.30）
 - ④茶話会開催（R3.12.17）
 - ⑤熊本県ハンセン病医療・福祉研修会の開催（R4.1.29）
 - ⑥講演会「～誰にも生まれてきた意味がある～」（R4.2.26～3.8）
 - ⑦ひまわりの会中修一氏の半生についてのDVD作成
 - ⑧県内自治体等あいさつ回り（12箇所）（1月末時点）
 - ⑨相談員の研修会等講師派遣（3回今後の予定含む）
 - ⑩ひまわりの会中修一氏、オンライン講話、会議支援（5回）

りんどう相談業務月別実績一覧

令和2年度(2020年度)					令和3年度(2021年度)				
種別	相談件数	延べ利用者数		実利用者数	種別	相談件数	延べ利用者数		実利用者数
			(うち家族補償関係)					(うち家族補償関係)	
4月	23	23	(11)	17	4月	40	40	(18)	13
5月	15	15	(9)	9	5月	20	20	(3)	11
6月	32	32	(17)	20	6月	28	28	(11)	22
7月	24	24	(15)	18	7月	22	22	(3)	15
8月	21	21	(7)	15	8月	19	19	(3)	14
9月	12	12	(6)	7	9月	16	16	(4)	14
10月	30	30	(17)	15	10月	16	16	(4)	13
11月	31	31	(11)	19	11月	19	19	(6)	10
12月	23	23	(13)	11	12月	25	25	(10)	22
1月	18	18	(8)	13	1月	27	27	(5)	13
2月	13	13	(6)	11	2月				
3月	20	20	(12)	12	3月				
計	262	262	(132)	167	計	232	232	(67)	147

【熊本県ハンセン病医療・福祉研修会】

《概要》

りんどう相談支援センター主催で、退所者が、園外の医療・介護施設をより利用しやすくするための環境を構築するため、医療・福祉施設の経営者・従事者から参加者を募り、菊池恵楓園内施設見学、ハンセン病の医学・看護・介護等に関する専門的な研修を実施。

- ・実施日：令和4年（2022年）1月29日（土）
- ・実施場所等：オンライン研修
- ・参加者数：23人（介護・福祉9人、医療2人、大学3人、行政2人、マスコミ2人、その他5人）

・内 容：

講義①「社会交流会館から歴史資料館へーハンセン病問題と入所者の生きた軌跡を伝えていくための取組ー」

（講師：菊池恵楓園 学芸員 原田寿真 氏）

講義②「ハンセン病回復者／高齢者のケアと介護」

（講師：菊池恵楓園 前副園長 野上玲子 氏）

講義③「体験講話」（講師：ひまわりの会 会長 中修一 氏）

鼎談 「ハンセン病と新型コロナウイルスについて思うこと」

（講師：ひまわりの会 会長 中修一 氏

熊本学園大学 名誉教授 遠藤隆久氏

熊本大学 名誉教授 小野友道氏）

■事業実施によって分かった問題点・反省点

- ・計画当初は対面（熊本 YMCA ジェーンズホールを予約）とオンラインのハイブリット研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大のため、オンラインのみの研修として実施。
- ・今年度は、新たな広報手段として、熊医会報、介護事業所メールマガジン、くまにちタウンポケットへの掲載など行ったが、参加者数は例年と変化がなかった。もっと多くの方に受講いただけるよう広報を工夫する必要がある。

□過去の参加状況

平成 29 年度（2017 年度）	49 人	令和 2 年度（2020 年度）	27 人
平成 30 年度（2018 年度）	12 人		（オンライン）
平成 31 年度（2019 年度）	41 人		

【りんどう主催講演会「～誰にも生まれてきた意味がある～」】

《概要》

広く一般の方を対象に、ハンセン病及びハンセン病問題に対する理解を深め、人が生きることの意味を考えていただく機会となることを目的として開催。

- ・実施日：令和4年（2022年）2月29日（土）～3月8日（火）
- ・実施場所等：オンデマンド配信
- ・参加者数：105人（2月17日正午現在）
- ・内容：朗読劇「あん」

＜出演＞ドリアン助川（朗読）、中井貴恵（朗読）、
ピクルス田村（ギター）

■事業実施によって分かった問題点・反省点

- ・計画当初は熊本テルサで開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の再拡大のため、オンデマンド配信として実施した。
- ・熊本テルサで開催する場合は、ロビーでの金陽会絵画パネルの展示も予定していたが、実施できなかった。
- ・来年度、新型コロナウイルス感染症の感染が落ち着いている時期に、オンデマンド配信では参加できない方向けに、会場を借りての上映会を検討している。

□令和4年度(2022年度)事業内容(予定)

《概要》

継続して丁寧な相談支援活動を行うとともに、研修会への講師派遣や、主催行事等についても積極的に告知を行い活動する。

また、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら、各地の療養所や資料館等へ訪問を行い、多くの当事者やご家族の方とお会いできるよう、人脈を広げていく。

(相談以外の活動予定)

- ①菊池恵楓園退所者の会ひまわりの会との意見交換会支援
- ②茶話会開催
- ③熊本県ハンセン病医療・福祉研修会の開催(2月頃)
- ④講演会「～誰にも生まれてきた意味がある～」上映会
- ⑤ひまわりの会中修一氏の半生についてのDVDを活用した啓発活動
- ⑥県内自治体等あいさつ回り
- ⑦相談員の研修会等講師派遣
- ⑧相談員の菊池恵楓園ボランティアガイド講習受講

熊本県出身の療養所入所者の方への事業

1. ふるさと訪問事業（里帰り事業）

〈概要〉

過去、県が行った強制隔離政策に県も協力したことによる反省から、県内外のハンセン病療養所の入所者の方を県内各地にご案内するもの。

令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・菊池恵楓園からは参加の意向があったが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止。

令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

- ・6月頃に各施設への意向調査を行い、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら決定。

2. 熊本ふるさと便の送付

〈概要〉

県内外のハンセン病療養所の入所者の方を対象に、熊本県の特産品を12月に送付するもの。

令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・12月に（県内療養所には熊本県産デコポン、県外療養所にはでこぼんジュース）を送付。

令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

- ・例年どおり12月に送付予定。

3. 県外療養所入所者の方への熊本日新聞の配布

令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・星塚敬愛園（県人会）へ配布。
- ・多摩全生園（個人）からは4月に休止希望があり、5月から休止。

令和4年度（2022年度）事業内容（予定）

- ・星塚敬愛園（県人会）へ配布。

りんどう相談支援センター 今年度の活動内容（報告・予定）

1. 研修会

①一般研修会

朗読劇「あん」～誰にも生まれてきた意味がある～

内容：小説「あん」の原作者ドリアン助川氏と俳優中井貴恵氏による朗読劇
[補足]

令和4年2月26日に熊本市テルサで開催予定であったが、コロナ感染拡大の現状を踏まえオンデマンド配信に変更した。

配信期間：2月26日（土曜日）～3月8日（火曜日）

2月26日は14時からセンターにても視聴予定。

次年度も、映像を使用し、上映会を1回開催予定。

参加申込数：105人（2月17日正午時点）

②医療・福祉研修会

医療・福祉従事者を対象とした研修会。

開催日：令和4年1月29日（土曜日）

[補足]

ハイブリッドでの開催予定であったが、コロナ感染拡大の状況から zoom 配信のみに変更して実施。

参加者数：23人

<参加者からの意見（抜粋）※>

「今なお、世の中にある差別や偏見に苦しんでいる人々がたくさんいることをしっかりと理解する。」

「いろいろと考えさせられる内容でした。特に最後のコロナ差別とリンクしたセッションがとてもよかった。」

※アンケートを添付。

2. 啓発活動

①国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展（～「知らない」を観に行こう～）

九州ルーテル学院大学とりんどう相談支援センターとの共催により、九州ルーテル学院大学公開講座において実施。

同大学の学生を中心に、若い世代に絵画をみていただいたことは、ハンセン病問題を知る契機となり、有意義であった。

展示期間：令和3年11月1日（月）～11月5日（金）

会場：九州ルーテル学院大学エカード会館

内容：大学の講義室における絵画の展示

一般社団法人ヒューマンライツふくおかの藏座江美氏による「金陽会の作品展を通して伝えたいこと」を演題とした講話。

参加者数：274人

〔参考〕アンケート意見（一部抜粋）

「多くの作品で故郷や家族を想っていたことが伝わってきた。」

「差別や偏見、排除を解消するために、まずは正しく知ってほしいと思いました。」

- ②ハンセン病関連物展示会（予定） 次年度に延期
内容は、金陽会絵画展示等（次年度内容は再度検討する）

- ③ハンセン病回復者 中さん DVD 制作（3月中に完成予定）

ハンセン病回復者の生の声を後世に伝えるため、ハンセン病回復者である、中修一氏にご自身の半生を語っていただき、センターにて映像編集を行い、DVDを制作する。次年度以降、県民に対する啓発活動に活用する。

主な内容（案）DVD3本に編成

- 1) 奄美時代～岡山（発症、高校時代、奄美）、大阪時代
- 2) 1970年～恵楓園時代
- 3) 社会復帰後～現在

- ④りんどう相談支援センター外部依頼研修

令和3年度に、次のとおり外部団体等主催の研修において、センター相談員が講師を務めた。

6月 中学校1年生・教員（85名）

10月 人権擁護委員※（25名）

11月 人権擁護委員※（10名）

※ 1月の研修予定は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止になった。

3 相談業務（家族補償金等相談概要）

①相談事例

- ・ 当事者による自身の兄弟との関係に関する相談
- ・ 当事者を含む三世代が同居する家族からの相談
- ・ 当事者と同居していないが、日常的に交流があった親族（孫）からの補償金請求に関する相談

②ハンセン病元患者家族補償金申請に係る支援

- ・ 当事者がハンセン病であることを示す客観的資料（入所・受診、在宅治療等）がなく厚生労働省から不認定決定通知書が届いた事案について、戸籍や親族の証言を添えて対応した。

4 茶話会

12月中旬に、熊本市内の公民館にて茶話会を開催した。

10名程の当事者やその家族が集まり、近況を語り合った。

次回開催分を3月に予定している。

（但し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況次第で変更の可能性有り）

5 回復者支援

・中修一氏の活動支援

追手門学院大学オンライン講話 5月28日 ZOOM 参加支援

ひまわりの会と熊本市の意見交換会 9月9日 Teams 参加支援

厚生労働省令和3年度ハンセン病問題対策協議会 11月30日 ZOOM 参加支援

熊本市特別相談会 令和4年2月9日 ZOOM 参加支援

水俣第一中学2年生講話 令和4年2月16日 ZOOM 参加支援

2021 年度

熊本県ハンセン病問題相談・支援センターりんどう講演会

～誰にも生まれてきた意味がある～

人気小説「あん」の原作者ドリアン助川さんと女優中井貴恵さんによる朗読公演

- ・開会/主催者挨拶
- ・朗読劇「あん」 (約80分)
～誰にも生まれてきた意味がある～

出演：ドリアン助川 (朗読)
中井貴恵 (朗読)
ピクルス田村 (ギター)



オンデマンド配信に変更になりました
是非ご覧ください！

視聴期間 2022 年

2 月 26 日 (土) 14 時 ~ 3 月 8 日 (火) 終日

※動画はこの期間中は何度でも無料で視聴できます。

締切・・・2022 年 3 月 7 日 (月)

応募先



kumarindou@gmail.com

申込方法・・・・・・・・・・

メール、又は右記のQRコードを読み取り、ご応募ください。りんどうのホームページからもご応募できます。申込された方にURLをお送りします。

施設や学校などで、是非ご覧ください。



※いただいた情報は責任をもって管理します。なお、今後のイベントの際にご案内をしてもよい方は、その旨お知らせください。

携帯でのお申込はこちらから



主催：熊本県、熊本県ハンセン病問題相談・支援センター (りんどう相談支援センター)

朗読劇

あん

線路沿いから一本路地を抜けたところにある、小さなどら焼き店『どら春』千太郎が日がな一日鉄板に向かう店に、アルバイトの求人を見てやってきたのは70歳を過ぎた女性・吉井徳江だった。

徳江のつくる「あん」の旨さに舌をまく千太郎は彼女を雇い、店は繁盛しはじめめるのだが……。

偏見により社会から締め出されてきた徳江が、千太郎に伝えたかった「生きる意味」。深い余韻が残る、現代の名作。

～ドリアン助川～

生をまっとうするとは、どういうことなのか。逆境を生き抜いた女性を主軸に捉えた物語ではありますが、「あん」を描くにあたって心を砕いたのは、生きることへの普遍的な問い掛けに対するひとつの思いの提示です。

朗読の第一人者である中井貴恵さんと原作者である私が、語りだけでお届けする「あん」は、声にならない部分も含めて、命あるものたちの言葉に満ちています。透明なその言葉を、どうぞ聴きにいらして下さい。

～中井貴恵～

私のもとに送られてきたかわいらしい装丁の「あん」という小説。いっきに吸い込まれるように読んだ。透明感のある文章。そこに生きる人たち。久し振りにすがすがしい読後感に満たされた。

あっという間にこの小説が映画になった。実は映画化が決まる前に「一緒に朗読劇にしませんか」と原作者であるドリアンさんから声をかけていただいた。

「誰にでも生まれてきた意味がある」そんなテーマを美しい言葉で表現できたらと思っている。

◎出演者プロフィール

■中井貴恵 (俳優 エッセイスト)

1978年映画「女王蜂」でヒロインデビュー。1982年映画「制覇」で日本アカデミー助演女優賞を受賞。1998年より『大人と子供のための読みきかせの会』の代表をつとめ、小学校、幼稚園、小児病棟などでの公演は現在までに1500回以上に及ぶ。

2009年にスタートした小津安二郎監督映画を朗読する「音語り」は好評で、シリーズ6作品を全国で公演中。2017年翻訳絵本をピアノにのせて朗読する「おとな絵本の朗読会」シリーズを開始。再話、翻訳を担当した絵本が多数出版されている。

■ドリアン助川 (明治学院大学国際学部教授 作家 歌手)

日本ペンクラブ常務理事。放送作家・海外取材記者を経て、1990年バンド「叫ぶ詩人の会」を結成。同バンド解散後、2000年からニューヨークに3年間滞在し、帰国後は明川哲也の第二筆名も交え、本格的に執筆を開始。著書多数。

小説『あん』は河瀬直美監督により映画化され、2015年カンヌ国際映画祭のオープニングフィルムとなる。また小説そのものもフランス、イギリス、ドイツ、イタリアなど14言語に翻訳されており、フランスでは「DOMITYS 文学賞」と「読者による文庫本大賞」の二冠を得る。

■ピクルス田村 (作曲 ギターリスト)

田村輝晃としてソロギターリスト、弾き語りとして活動中。ドリアン助川氏とのユニットでは、ピクルス田村として音楽を担当。

お問合せ：りんどう相談支援センター ☎096-365-7606

りんどう相談支援センター

検索

HPのQRコード⇒



熊本県

第6回

ハンセン病 医療・福祉研修会

オンラインのみに変更

2022年1月29日(土)

10時～15時半



ハンセン病の回復者は、病気の後遺症による特有のお悩みをお持ちですが、病気に対する偏見や差別を恐れ、言い出せない方が少なからずおられます。そこで、ハンセン病回復者が、安心して快適な医療・福祉サービスを受けるためには、ハンセン病問題の歴史や病気についての正しい知識と理解が必要です。熊本県ハンセン病問題相談・支援センター(りんどう相談支援センター)は、医療・福祉従事者に向けての研修会を実施します。皆様のご参加をお待ちしています。

申し込み対象者

(オンライン100名)

◇医療関係業務従事者

(医師・看護師・理学療法士・作業療法士等)

◇福祉関係業務従事者

(介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士・ホームヘルパー等)

◇その他医療・福祉に関心のある方

(学生・求職者・教職者・ボランティア等関心のある方)

プログラム

◆講義1:「社会交流会館から歴史資料館へ — ハンセン病問題と

入所者の生きた軌跡を伝えていくための取り組み —」【講師】 菊池恵楓園 学芸員 原田寿真氏

◆講義2:「ハンセン病回復者／高齢者のケアと介護」

【講師】 菊池恵楓園 前副園長 野上玲子氏

◆講義3:体験講話

【講師】 ひまわりの会 会長 中修一氏

◆講義4:鼎談「ハンセン病と新型コロナについて思うこと」

【講師】 ひまわりの会 会長 中修一氏

熊本学園大学名誉教授 遠藤隆久氏

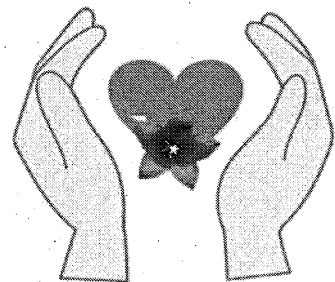
熊本大学名誉教授 小野友道氏

～申し込み方法～

右記のQRコードを読み取り、専用申込フォームからお申し込みください。オンラインでの参加の方には前日までにzoom研修に参加するためのURLを送ります。りんどう相談支援センターのホームページからも申込むことができます。



専用申込フォーム



～お問合せ～りんどう相談支援センター

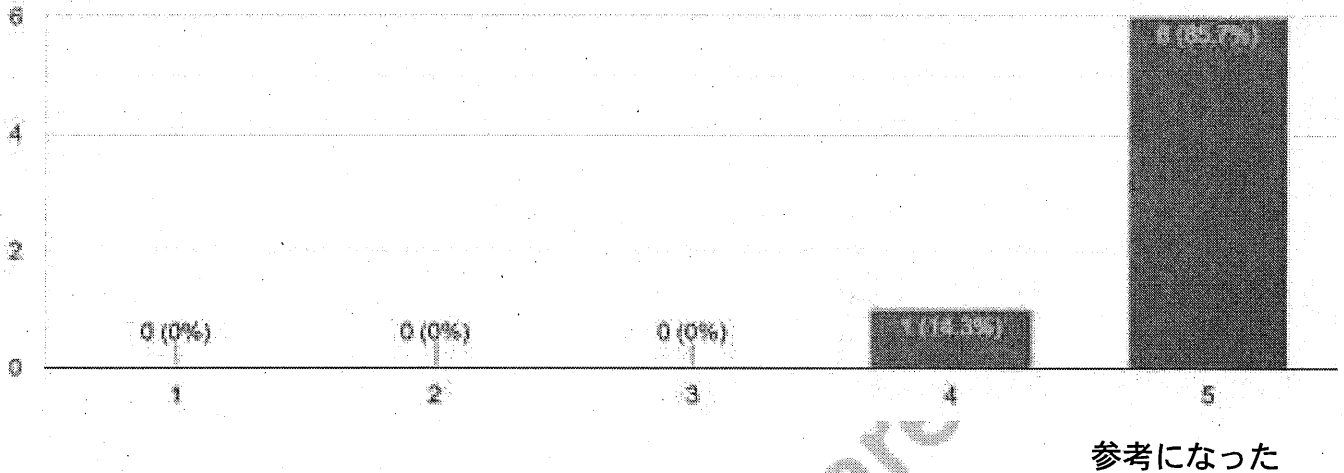
☎096-365-7606 ✉kumarindou2020@gmail.com



第6回ハンセン病医療福祉研修会アンケート

1. 学芸員 原田寿真さんの講義について

7件の回答

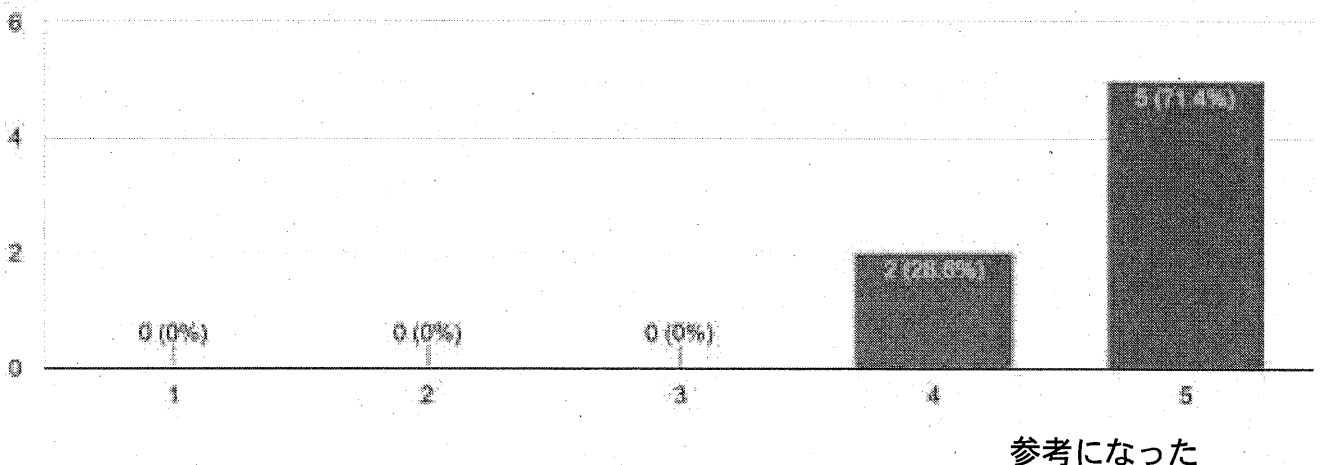


【感想・質問等】

- パソコンの調子が悪く途中からの視聴になりましたがコロナが落ち着いたら歴史資料館へ伺ってみたいと思います。
- 「菊池恵楓園の歴史を歩く」。私も菊池恵楓園へ訪れ自分の目で自分の体でさまざまなことを感じ、学びを深めていきたいと思いました。まだ学生ですが、今の私だからことできることを探して実践していきたいです。ありがとうございました。
- とても、考えさせられるご講義でした。ありがとうございました。

2. 菊池恵楓園元副園長 野上玲子氏の講義について

7件の回答

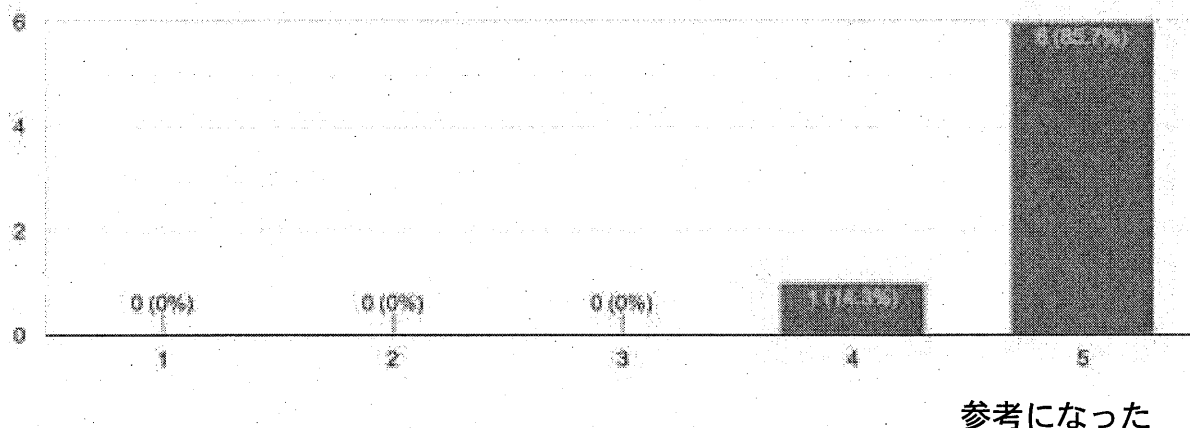


【感想・質問等】

- なかなか聞くことのできないケアについてのお話ハンセン病の理解に一步つながったと感じました。
- 今は学生で直接かかわることは難しいですが、今回学んだことを将来に活かしていくことができたらと思います。ありがとうございました。

3. 中修一氏の体験講話について

7件の回答

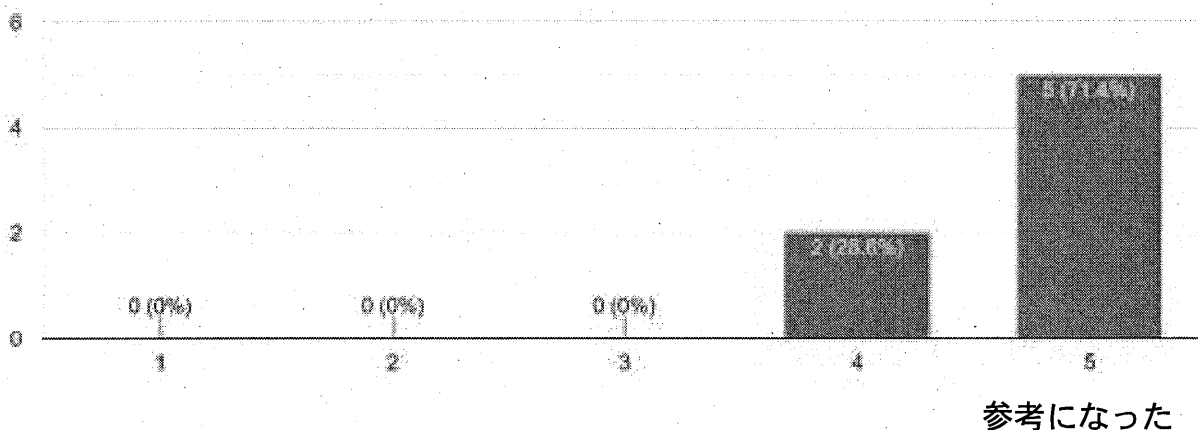


【感想・質問等】

- 傍観者としての差別者にならないを肝に銘じます。とても身につまされた講話でした。
- 中さんのお話の中で、心が苦しくなってしまうような事実がたくさんありました。しかし、この事実を自分の中にしまっておくのではなく、しっかり私も伝えていくべきだと感じました。当事者の想いを一人でも多くの人に届けることができるように、そして今よりもっと差別や偏見で苦しむ人が少なくなるように、目を背けずに正面から向き合っていこうと思います。これからも学びを深めていきたいです。ありがとうございました。

4. 鼎談「ハンセン病と新型コロナについて思うこと」について

7件の回答



【感想・質問等】

- 小野先生のコロナ感染を通してのお話はコロナだけではなくハンセン病と対比して考えていくことを教えていただきそのような目を持って今後考えていきたいと思えます。
- 今もなお、世の中にある差別や偏見に苦しんでいる人々がたくさんいるということをしっかりと理解したうえで、現在世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスに対する考え方や捉え方を変えていくべきだと改めて感じました。

ハンセン病問題普及啓発に係る令和3年度（2021年度）実績報告
及び令和4年度（2022年度）事業計画

取組：①人権教育に関する研修会

■令和3年度（2021年度）取組内容

- ・概要：教育関係者を対象に「ハンセン病回復者及びその家族の人権」に関する理解と認識を深めることを目的に実施。

①校長人権教育推進会議

- ・公立学校（熊本市の小中学校を除く）の校長、県立学校の人権教育主任を対象に行政説明及び講演
演題「新型コロナウイルス感染症に関わる人権～ハンセン病問題の教訓を生かす～」
講師 九州大学 内田 博文 名誉教授

②教職員研修

- ・副校長、教頭、新任教頭・事務長、人権教育主任を対象に行政説明
- ・経験者研修（教諭：初任、5年、10年）、（事務職員：初任、3年目、7年目）で行政説明

③社会教育関係者研修

- ・市町村行政担当者、社会教育主事、青少年施設職員、地域人権教育指導員を対象に行政説明

□令和4年度（2022年度）事業計画

- ・概要：同上

①校長人権教育推進会議

②教職員研修

③社会教育関係者研修

事業名：②教職員のための菊池恵楓園現地研修

■令和3年度（2021年度）事業実施内容

- ・概要： 「菊池恵楓園での現地研修を通して、ハンセン病回復者及びその家族の人権についての基本的認識を深め、人権教育の推進に向けた資質の向上及び実践的な指導力を高める」ことを目的に実施。

対象者は、公立学校（熊本市の小中学校を除く）の教職員（毎年度120人程度）。

内容は、菊池恵楓園のフィールドワーク、行政説明、菊池恵楓園入所者自治会の講話、班別協議。

事前学習としてハンセン病問題啓発DVD「壁をこえて」の視聴、研修後の各学校での伝達研修を義務付け。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、菊池恵楓園と連携してオンデマンドによる研修を実施。

- ・配信期間：令和3年（2021年）8月2日～27日
- ・対象者：令和3年度（2021年度）該当校教職員（複数参加可）299人受講

（研修内容）

- ①デジタル研修資料「ハンセン病回復者及びその家族の人権」（20分、県教委作成）
- ②菊池恵楓園入所者自治会啓発DVD見学映像「恵楓園の歴史を歩く」
- ③菊池恵楓園入所者自治会啓発DVD講話

「ハンセン病問題の歴史と私の体験」菊池恵楓園入所者自治会 志村 康 会長

□令和4年度（2022年度）事業計画

- ・概要：同上
- ・実施日：令和4年（2022年）8月18日（木）（予定）
- ・対象者：令和4年度（2022年度）該当校（112校）から各1名

取組：③各学校の校内研修の推進

■令和3年度（2021年度）取組内容

- ・概要： 人権の意義や内容・重要性及び「ハンセン病回復者及びその家族の人権」に係る教職員の基本的認識を深めるとともに、実践的な指導力を高める研修の推進に向けた資料の提供及び指導主事の派遣を通して校内研修の推進を図る。

- ①デジタル研修資料を改訂し、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」（20分）を配信。
今年度の視聴回数 11,811回（R4.1.31現在）
- ②リーフレット「ハンセン病を正しく理解しましょう」（県作成）を周知。
- ③パンフレット「ハンセン病の向こう側」、啓発動画「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」を周知。
- ④市町村教育委員会主催研修及び県立学校の校内研修への指導主事派遣による支援。
2市町村、13県立学校派遣

<校内研修報告書から>

- ・菊池恵楓園の箕田園長に講話いただき、意見交流を行った。9ヶ年を通じたハンセン病問題の学習に向けて、全職員で確認することができた。（市町村立中学校）
- ・デジタル研修資料「ハンセン病回復者及びその家族の人権」の視聴後、偏見や差別をなくしていくために私たちができる取組などについて協議し、共通理解した。（県立学校）

□令和4年度（2022年度）事業計画

- ・概要：同上
- ①デジタル研修資料の配信
 - ②リーフレット「ハンセン病を正しく理解しましょう」（県作成）の周知
 - ③パンフレット「ハンセン病の向こう側」、啓発動画「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」の周知
 - ④市町村教育委員会主催研修及び県立学校の校内研修への指導主事派遣による支援

事業名：人権啓発Web講座

□令和3年度（2021年度）事業内容

期 日：令和3年（2021年）7月21日～令和4年（2022年）3月31日まで

内 容：人権課題をテーマとした講話動画の配信（全15講座）

子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、同和問題（部落差別）、外国人の人権、水俣病をめぐる人権、ハンセン病回復者とその家族の人権、感染症をめぐる人権、災害と人権、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント、SDGsと人権

<ハンセン病回復者とその家族の人権>

テーマ：「ハンセン病回復者として伝えたいこと」

講 師：菊池恵楓園退所者 中 修一さん

<感染症をめぐる人権>

テーマ：「新型コロナウイルス感染症と人権

～ハンセン病問題と自身の経験から～」

講 師：熊本大学顧問・名誉教授、熊本機能病院顧問 小野 友道さん

□事業実施の成果（令和4年（2022年）1月27日段階）

- ・ 動画総視聴数：6,601回
（うち、中さん175回、小野さん424回）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による集合研修の困難さや在宅勤務の広がりに対応し、かつオンラインならではの利便性（いつでも・どこでも・誰でも・何度でも）が一定の評価を得た。

□令和4年度（2022年度）事業予定

期 日：令和4年（2022年）4月1日～令和5年（2023年）3月31日まで

内 容：人権課題をテーマとした講話動画の配信

子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、同和問題（部落差別）、外国人の人権、水俣病をめぐる人権、ハンセン病回復者とその家族の人権、感染症をめぐる人権、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント、SDGsと人権 など

<ハンセン病回復者とその家族の人権>

講 師：菊池恵楓園退所者 中 修一さん

<感染症をめぐる人権>

講 師：熊本大学顧問・名誉教授、熊本機能病院顧問 小野 友道さん